

1 ポイント説明法を使って話を組み立てる

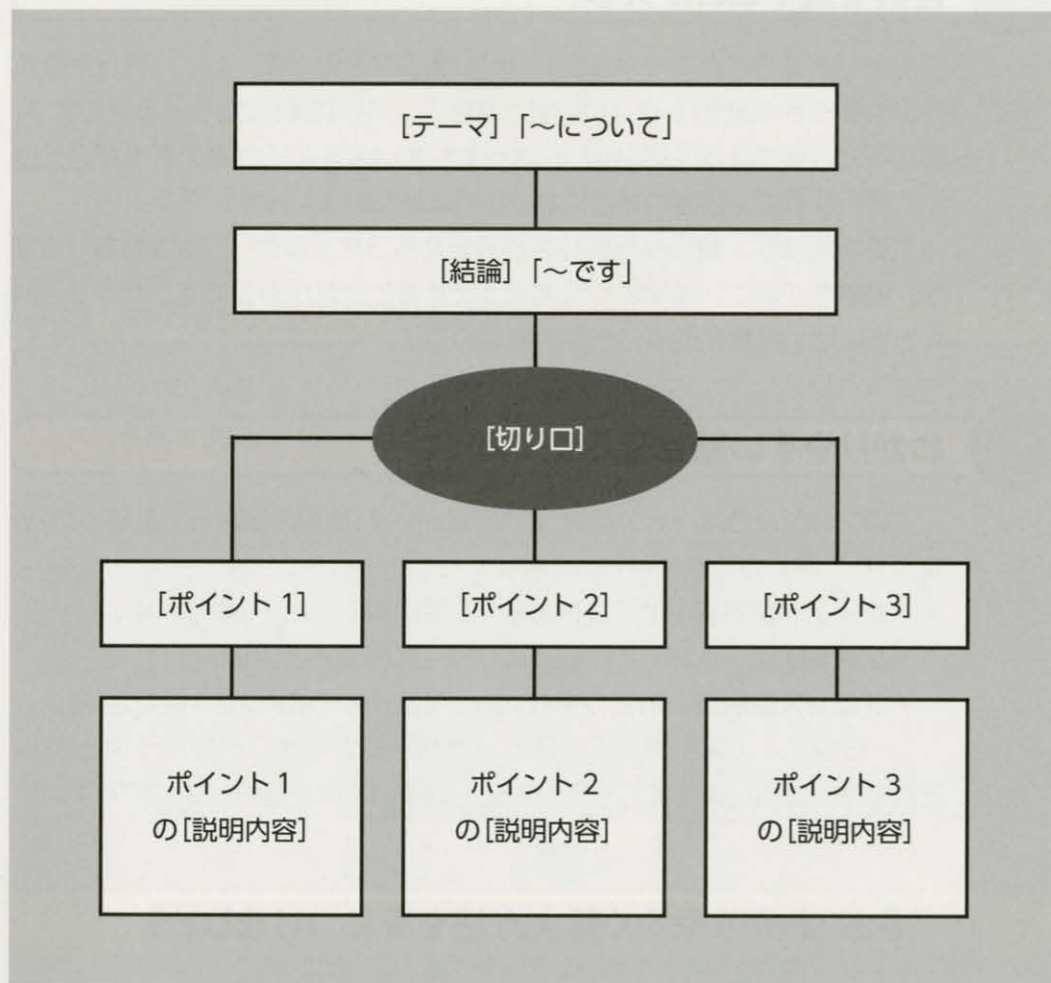
(1) 図の基本形と使い方

「ポイント説明法」は、テーマ・結論について、重点ポイントをあげて説明する方法です。ここでは、そのための「話の組み立て方」を解説します。

図の基本形は、ツリー図とほぼ同じです。これをもとに、聞き手が理解しやすい話を組み立てます。

この方法を使うと、聞き手はテーマについての説明をいくつかのポイントに分けて理解することができるため聞いたことを整理しやすく、わかりやすくなるというものです。また、話し手にとっても、事前にこの図を使って話すべきことを整理すれば、不要な情報を取り除き、情報の抜け漏れにも気づくことができます。

◆ポイント説明法の基本形




<使い方>

- ① 何の話をするかを[テーマ]として設定します。
「～について」という意味を持たせます。
- ② 相手に理解・納得してほしいことを[結論]として示します。
- ③ [テーマ]と[結論]をどのような[切り口]から説明するかを決めます。
* [切り口]の例…内容、要素、重点、理由、原因、課題、問題、方法、留意点、注意点、その他さまざまありますので、話し手の意図に合わせて選んでください。
- ④ [切り口]にしたがって、説明の[ポイント]を設定します。
たとえば、「～([テーマ])について、その内容を1つの切り口から●●、■■、▲▲の3つの面から説明する」という場合は、ポイントが3点ということです。ポイントの数は、聞き手の理解しやすさから2～4点程度にまとめるとよいでしょう。
- ⑤ 設定した[ポイント]について、それぞれ詳しい[説明内容]を設定します。
必要な情報を漏らさないことと、不要な情報を取り除くことが大切です。必要な情報が欠けると、聞き手は理解できません。また、逆に不要な情報が多すぎると混乱してしまいます。
- ⑥ 最後に、内容全体を再確認します。
これが最も重要です。①～⑤ができて、まだ不適切、不十分なところがあるかもしれません。それを探し改善します。この段階で改善できないところが残る場合は、[結論]自体が誤っている可能性があります。誤った[結論]を、聞き手に理解させることはできません。
再確認の重要ポイントは次の3点です。

【再確認のポイント】

- ・話の中に誤った情報はないか？
- ・情報同士のつじつまが合っているか？
- ・聞き手が理解するために必要な情報があり、不要な情報が取り除かれているか？

●聞き手の身になって、話す内容を再確認

 説明を図にまとめることで、話し手の頭の中も整理されます。また、自分の説明を客観的に俯瞰して捉えることができ、説明の過不足などもチェックしやすくなります。大事な話をするときは、事前に内容を図にまとめ、必ず再確認を行って内容を修正・改善し、そのうえで話すことが大切です。

ワンポイントアドバイス